

令和6年第5回国立大学法人旭川医科大学経営協議会議事要旨

1. 日 時 : 令和6年12月20日(金) 13:00～15:00
2. 場 所 : 第一会議室
3. 出席者 : 西川 祐司学長, 古川 博之理事, 奥村 利勝理事, 辻 泰弘理事,
中村 寧委員, 原田 直彦委員, 長谷部 直幸委員, 白井 恵理子委員,
研谷 智委員
4. 欠席者 : なし
5. 陪席者 : 吉崎 敏樹監事, 村木 一行監事, 川辺 淳一副学長, 東 信良副学長,
牧野 雄一副学長, 吉原事務局長, 成田事務局次長(総務・教務担当), 郡事務
局次長(病院担当), 長谷川総務課長, 佐藤人事課長, 石川会計課長, 石坂経営
企画課長,

議事に先立ち、学長から、令和6年第3回及び第4回の経営協議会議事要旨が諮られ、これが了承された。

議題

1. 令和7年度予算編成方針(案)について

古川理事から資料1に基づき、令和7年度の予算編成方針については、前例のない超緊縮型の予算を編成せざるを得ない状況であるため、これまでの予算配分を抜本的に見直さなければならぬこと、財政基盤を強化するためにも、聖域なき支出改革を行うとともに病院収入や外部資金等の自己収入の増収対策など、これまでにない財政健全化に向けた取組について、全学をあげて実行していかなければならぬことなどの説明があった後、具体的な予算編成の方針について説明があった。

次いで、学長から、来年度は厳しい超緊縮財政でスタートしなければならないが、このような状況が長く続くと大学自体の勢いも失ってしまうことからそれだけは避けたく、何とか財務状況改善の兆しが見えてきたら、教育、研究、診療のレベルを向上させるための必要な投資を行うなどメリハリのある形で種々対応していく旨発言があった後、本件について発議があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

続いて、学長から、北海道や旭川市などの行政機関との連携あるいは支援を受けることができないかなどを含め色々と相談していきたい旨発言があり、中村委員から、令和7年度の予算編成方針の中身とは異なる話になるが、病床稼働率がなかなか上がらないという状況については、医大だけのことではなく、上川中部圏域なりなんりの病院の再編、あるいはそれぞれの役割に基づく連携の在り方について、具体的に協議していく時機が来ている旨発言があった後、古川理事から、医療職も年々減り、病院を維持すること自体が難しい時代になってきており、患者及び医療職、双方を考え合わせながら再編、連携の在り方を見つけつつ、それを進めていかなければならぬ旨発言があった。

続いて、病院の稼働率の向上について、種々意見交換があった。

2. 役員の期末特別手当について

本件について、学長から、本年12月期の期末特別手当については、標準額とするところ、人事院勧告への対応について遑って対応できないことを心苦しく思っている

ことから、私（学長）と古川理事及び奥村理事に関しては業績に関係なく、1割減額したい旨発議があり、審議の結果、これが了承された。

次いで、本件についての学内外への公表について、種々意見交換がされ、学長らの気持ちを示すという意味合いで学内には、公開することとなった。

3. ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター職に関する要項の新設等について

本件について、佐藤人事課長から、本学が申請中だった北海道大学未来創造スタートアップ育成総合支援ネットワークの共同機関としての参画が承認され、ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター職（以下「URA」という。）の雇用を用途としてプログラム推進費が予算措置されたことから、実際にURA職を雇用するにあたり、選考基準や給与などに関して定めるべく要項を新設する必要があること及び資料3-1及び資料3-2に基づき、規定の内容について説明があった後、本件について学長から発議があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

次いで、学長から、本件については1月8日開催の役員会に附議する旨付言があった。

報告事項

1. 令和6事業年度中間決算について

古川理事から、資料4に基づき、令和6事業年度中間決算及び令和7年度の予算編成についての説明があった後、今後、固定費である人件費の負担が膨れ上がることは明白であり、それに見合った支出削減を行わなければ恒常的な赤字体質となることから、大きな財務改善に取り組む必要がある旨発言があった。

次いで、古川理事から、財務状況を改善するための方策について説明があった。（本報告事項については、議事の進行上、議題1に先立って行われた。）

2. 寄附金の受入れについて

学長から、資料6に基づき、寄附金の受入れについて説明があった。

3. 内部質保証に係る自己点検評価及び改善について

学長から、資料6-3に基づき、内部質保証に係る自己点検評価及び改善に関しての説明及び資料6-1に基づき、自己点検・評価報告書については、改善及び向上が必要と認められた事項が4つあり、現在、それぞれの項目の担当責任者等に改善計画の策定と実施を指示している旨説明があった。

次いで、学長から、資料6-2に基づき、昨年度に実施した自己点検評価及び改善及び向上が必要と確認された事項5つの進捗状況について、説明があった。

4. 中期計画の進捗状況について

古川理事から、資料7-1及び7-2に基づき説明があり、学長から、一部未達成の評価指標については改めて実施担当者等へ指示する旨、発言があった。

意見交換事項

・本学病院の現状と課題について

東病院長から、席上配付資料に基づき説明が本学病院の現状や課題、対応策などに

ついて説明があった後、種々意見交換が行われた。

主な意見は、以下のとおり。

- ・看護師が確保できない現状は甚大な問題であり、看護師確保のための方策は最優先事項。市内の基幹病院とも、再編や機能分化について待ったなしで具体的に話し合う必要がある。そうしなければ、看護師はもとより他の医療職の取り合いになる。今までの常識が通用しない時代に入っており、頭を切り替えていかなければならない。

- ・看護師確保について、手当を出さないで確保できる時代ではない。札幌圏内でも取り合いになっている。そもそも看護師という職種の給料が安すぎるという本質的な問題もあり、看護師を辞めて別な職種にリクルートする方も多い時代で、それを食い止めるためには、我々の手だけでは手に負えず、今後、看護師離れは進み、その中で看護師の取り合いに負けてしまうのは非常によろしくない。相当に工夫してRPしないとイケない。

- ・夜勤をやりたがらない看護師が多く、特に、病院は入院の部分で稼がなければならず、何か手立てが必要と感じた。

次回経営協議会開催予定

学長から、令和7年3月7日（金）13時00分から、次回の経営協議会を開催する旨説明があった後、臨時で開催する必要がある場合には、改めて日程調整したい旨付言があった。